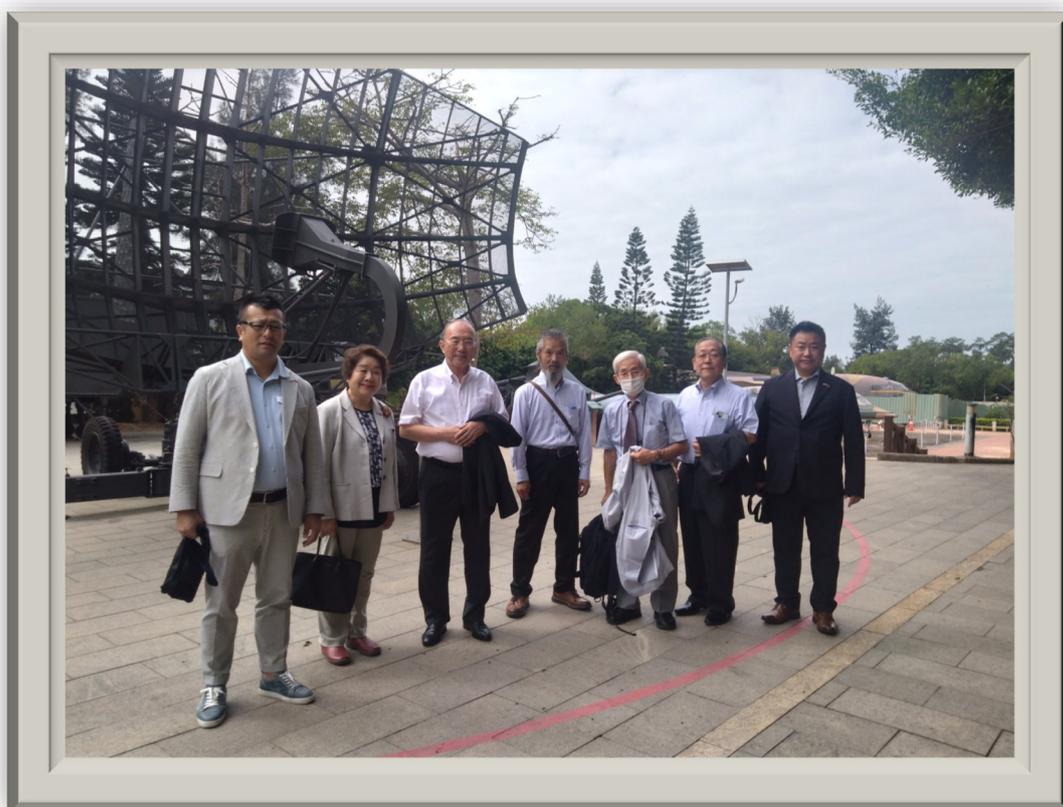


# 第4次台湾訪問団 Report

2024年10月21日～24日



左から、松浦、長田、鈴木、前田、北ノ坊、脇阪、東角（金門国家公園乳山遊客中心）



## 【訪問団】

団長	鈴木 和夫会長
副団長	脇阪 康弘副会長
	北之坊 皓司理事
	東角 輝彦理事
	長田 公子理事
	松浦 潤也理事
	前田 克也

大阪と台湾の平和の架け橋をめざしています

## 大阪府日華友好交流協会

事務局 〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5リアライズ谷町ビル408号

電話06-6910-3399 FAX06-6910-3398 E-mail info@nikka-osaka.jp HP <http://www.nikka-osaka.jp/>

# 台湾日本関係協会と会食会



記念品交換、総領事から台湾産ウイスキーを頂く

## 10月21日、阿美飯店(台北市)

台湾の対日本窓口機関である外交部亜東太平洋司日本総合事務科(台湾日本関係協会)の陳忠正総領事(右上写真中央)、姚品均科員(同右)と会食会を阿美飯店(台北市吉林路)で行いました。

陳総領事は、外交部アジア局で長く務められ、東京・福岡にも駐在された親日家。今回の訪台にお世話をおかけしました。意見交換では、台湾と日本の連携が大切であり今後も台日交流の懸け橋としてお互いに関係を深めることを約束しました。



士林夜市を散策



訪問団から記念品(江戸切子グラス、浮世絵の扇子、浮世絵スタンド)をお贈りしました。

桐箱入り



# 金門島



金門島は、台北から約270km、中国アモイからは約5kmしか離れおらず、国共内戦時は最前線の軍事拠点で1958年8月23日から44日間に中国軍が約47万5000発の砲弾を撃ち込み、79年1月までの21年間は戦闘状態。92年まで軍の管理下にあったため、自然の中に軍事施設や古民家集落が残っています。島内を見学するには見所が多く2日間はかかります。中国から上水道パイプラインを引くなど関係は深いためか、わずか1日だけの滞在かもしれませんが、対中国の緊張感を感じられませんでした。

## 10月22日、金門県政府表敬訪問

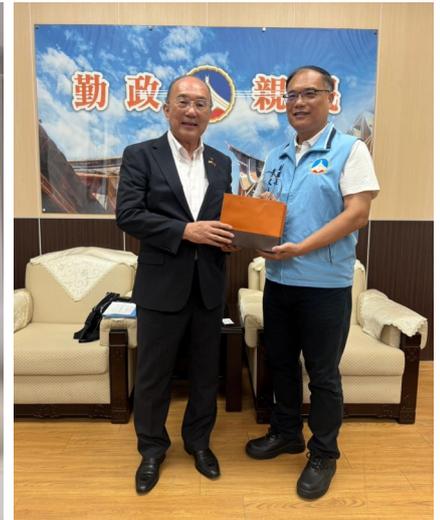


← 県政府玄関前で記念撮影    ↑ 迎賓室で副知事会見    ↓ 記念品交換

戦略的、地政学的に重要視され注目されている金門県政府(金門島)を表敬訪問し、李文良・副知事、董雲馨・観光副局長と会見。中国と台湾との間での国情や経済状況、国際交流について意見交換をしました。李副知事は、米国ノーザン・コロラド大学院卒で博士号。国立金門大學学部長を務められ副知事になられたので、教育の充実には特に力を入れられおり大阪との学校間交流推進の要望を受けました。

中国からの観光客約40万人(2019年)が、コロナ禍で1万人程度に激減し厳しい経済状況。現在は50年代に設立された金門酒工場で製造する58℃の金門高粱酒(コ-リャ)は年に約500億円の利益を上げ県財政を支えているそうです。

記念品交換では、副知事から全員に58℃の高梁酒(写真①)を頂きました。



### ようてきろうがい 陽翟老街

タイムスリップしたような旧市街地の町並みです。飲食店や土産物店などが数多く軒を並べ包丁もここで買えます。金門県政府は、観光スポットに指定しています。





①



②



③

## 金門島の名所を視察

### 翟山坑道 ザイシャントンネル

中国との砲戦の後に、3年がかりで台湾軍が海からの物資・弾薬の輸送船のために掘ったU字の地下水路(357㍍)とトンネルです。金門島の深い戦闘の歴史を肌で感じることができます。改めて金門島が特別な島であることを象徴する場所です。 写真①③③④



④



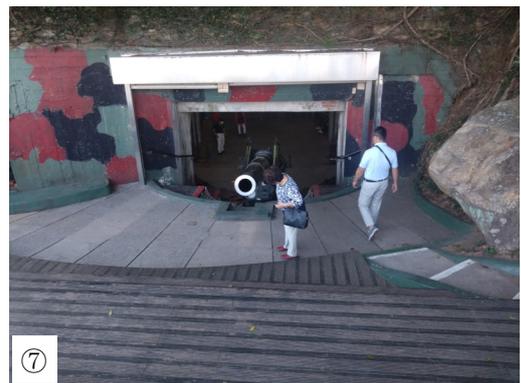
⑤

### 獅山砲陣地 てきやまほうじんち

金門島北東にある獅山砲陣地。1969年に完工した震東坑道(全長509㍍、高さ4.6㍍、幅3.6㍍)を抜けると砲台があります。79年まで海を挟んで砲撃戦が交わられていましたが、今は中国に向けた大砲発射パフォーマンスが毎日行われ、8インチのダミー榴弾の大砲の爆音には圧倒されます。写真⑤⑥⑦

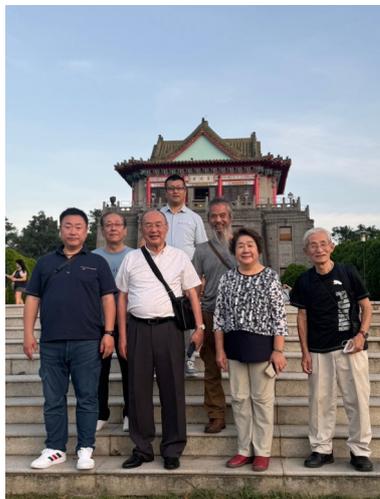


⑥



⑦

### 莒光楼 きょこうろう



中国風宮殿を模し1952年に金門の戦いで見事な戦果を称えて建てられた。アモイの町が見えます。

### 金門民俗文化村



1900年建設の中国伝統二進式双落建築物が18棟あり整った家並みは観光スポットです。

### 包丁の砲弾

中国軍から爆薬のない宣伝弾1発から約40本の包丁ができます。高粱酒とならび金門島の土産物として人気があります。



# 10月23日 屏東县政府表敬訪問



台湾最南部の屏東県庁(ヘイトウ・台湾語はピンドン)を訪問し、周春米・県知事、鄧鳳蘭・傳播及国際事務処長、楊英雪・教育処長、鄭永裕・農業処長、倪國鈞・交通旅遊副處長らと会見しました。都市交流、高校間の提携、農産物の振興などの意見交換し、今回をきっかけに相互で交流を深めていくことを確認しました。

周知事(写真右から6人目)は、1966年生まれ。国立台湾大学法学部卒業後、裁判官、弁護士を経て立法院立法委員(国会議員)。2022年12月から県知事。



2025年大阪万博で、屏東県の魅力とマンゴーなどの特産品の宣伝のため来日することを表明され、再び我々と再会できることを提案しました。



記念品交換では、一青妙らの旅する台湾「屏東」の本(日本語)と台湾ケーキを頂きました。



【屏東県】台湾最南端の農業・漁業が盛んな地域。人口は約80万人。自然を残す熱帯性気候でパイナップル、バナナ、マンゴーの果物畑が点在しています。屏東の東港は、マグロや桜エビの収穫が国内一の港町。国内初の国定公園墾丁(カンディ)でも有名。高雄駅から特急で約25分。

金門島から高雄までマンダリン航空で約1時間のフライト。日本人は我々だけでした。



# 台湾原住民族文化園區



屏東県瑪家郷に1985年設立、約82畝の敷地に台湾原住民族の16部族別に建物や文化が展示されています。広大な敷地で移動はすべて周遊バスを利用します。ナルワン演舞場では先住民族の伝統的な踊りを観覧しました。

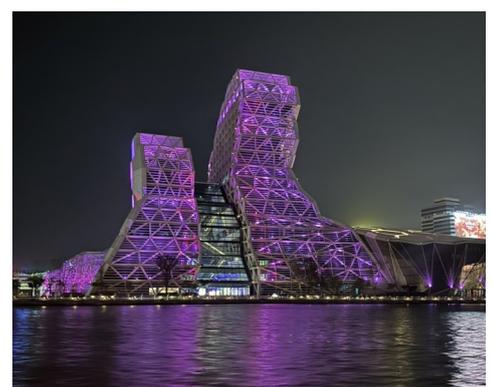
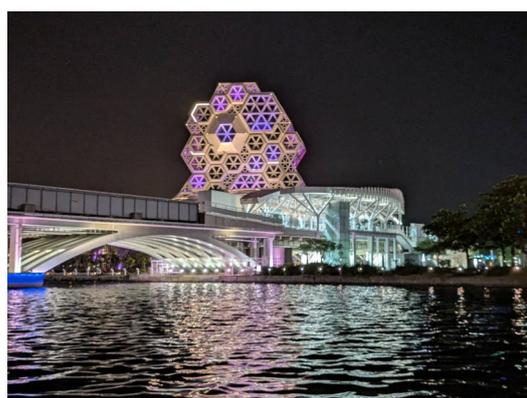


原住民族文化園区近くの琉璃花園餐廳で全員が初めての原住民料理を食しました。



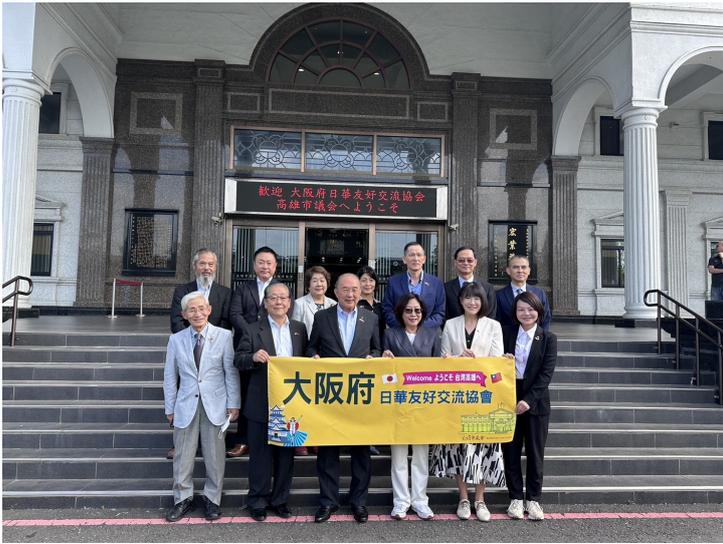
## 愛河ナイトクルーズ

屏東県からの帰途、高雄ベイエリアの愛河ナイトクルーズを楽しみました。ランドマークの「高雄流行音楽中心」を始め新しい開発が前回訪問した8年前と比べ相当進んでいます。ライトアップやイルミネーションの美しさが、訪れた人々の心を癒やしています。



歡迎 大阪府日華友好交流協會  
高雄市議會へようこそ

# 高雄市議會表敬訪問 10月24日



康裕成・議長。市議で鄭孟洳・国民外交促進会副会長と湯詠瑜・国民外交促進会副会長、黃錦平・市議会秘書長はじめ多くの議会関係者が玄関で出迎えをうけ、見送りまでして頂きました。いつも心に残るもてなしをしていただき高雄の人々の温かさを感じます。

会見では、大阪と高雄のさらなる交流を深めていくことを約束しました。

今回の康議長や屏東県の周知事のように、台湾では女性の政界進出が進んでいます。直轄市(台北・新北・桃園・台中・台南・高雄)の女性首長比率は37.5%、国会議員で41.06%と高いのはクォーター制の影響もありますが、それに比べ日本は遅れていると感じます。

康議長は、1956年生まれ、国立台湾大学卒。弁護士、高雄県議、高雄市議を経て2022年から2度目の議長。



康議長からの記念品中国茶急須、ちらすみ、写真立て



歓迎横断幕に出席者全員が記念署名しました



